

1 ()

平成15年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成15年1月から6月を予測期間とした「平成14年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催され、国、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海 況

【海況の経過（平成14年7月～12月）】

1. 黒潮

足摺岬沖では7月から8月上旬には接岸傾向にあったが、8月中旬・下旬にかけて「かなり離岸」となり、9月以降は接岸傾向で推移した。室戸岬沖では、9月中・下旬に「かなり離岸」となったが11月までは概ね接岸傾向で推移した。12月中旬現在、小蛇行が足摺岬沖を通過中で、足摺岬沖で「著しく離岸」、室戸岬沖で「接岸」となっている。

土佐湾沿岸水温の年間偏差

海域	土 佐 湾				
	水深	0m	50m	100m	200m
平成14年 7月	+	+	+	+	-
平成14年 8月	+	+	+	+	+
平成14年 9月	+	+	+	-	-
平成14年 10月	+	+	+	-	-
平成14年 11月	-	-	-	-	-
平成14年 12月	+	+	+	+	+

2. 沿岸海況

沿岸の水温は、表層では7月から10月は「平年並」から「やや高め」で、11月に「やや低め」となったが12月は「やや高め」で推移した。中層では7～9月に土佐湾中央部から東部で「高め」～「著しく高め」となり10月まで高め傾向で推移したが、11月には「やや低め」、12月には+基調の「平年並」となった。

土佐湾水温年間偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3～2.2
+	やや高め	0.6～1.3
+ -	平年並(+基調)	0.0～0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3～-2.2
-	やや低め	-0.6～-1.3
- +	平年並(-基調)	0.0～-0.6

各地の定地水温は(県下6カ所:甲浦、室戸岬、浦の内、田野浦、足摺岬及び柏島)、足摺岬では7月に「高め」、8月には「きわめて高め」となったほかは、11月の田野浦での「やや低め」以外、概ね「平年並」から「やや高め」で推移した。

【予測（平成15年1～6月）】

1. 黒潮

1月後半～2月前半に九州南東沖で小蛇行が発達する。この小蛇行は2月後半～3月に四国沖を東進し、それに伴い足摺岬沖で離岸傾向となり、3月後半～4月前半には室戸岬沖でも離岸傾向となる。

この小蛇行通過後は接岸傾向で推移する。

(予測の根拠)

類似年[1992(平成4)/93(平成5)年]の海況変動及び人工衛星海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法等による。

2. 沿岸の水温

土 佐 湾 : 「平年並」から「高め」で推移する。

豊後水道東部海域 : 「やや高め」から「高め」で推移する。

紀伊水道外域西部海域 : 「平年並み」で推移する。

(予測の根拠)

高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」、現在の海況の傾向等による。

漁 況

サバ類 (ゴマサバ及びマサバ)

【漁況の経過 (平成 14 年 7 ~ 11 月)】

1. 高知県

1) 中型まき網 (宿毛湾)

中型まき網の漁獲量 (以下、漁獲量は期間中の合計を示す) はゴマサバ主体に 1409 トンと前年並み (1404 トン) で、平年 (715 トン、以下、平年とは平成 3 年 ~ 12 年の平均値を示す) を大きく上回った。ゴマサバは、体長組成から 2 歳魚、3 歳魚主体に推移し、9 月以降に 0 歳魚が漁獲され始めた判断された。

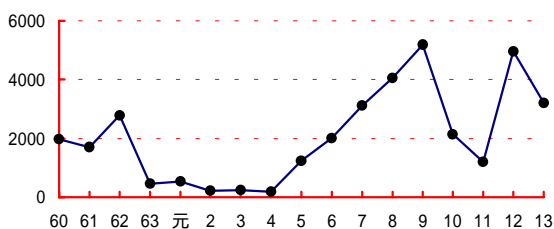


図 サバ類漁獲量の推移 (中型まき網: 宿毛湾)

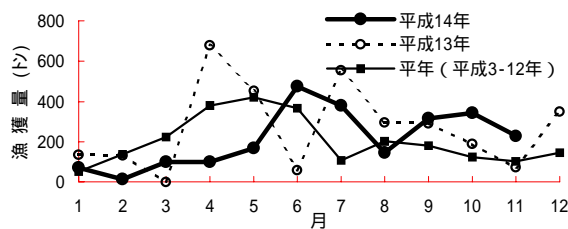


図 サバ類月別漁獲量の推移 (中型まき網: 宿毛湾)

2) 定置網 (窪津・加領郷・椎名漁協)

3 漁協の合計漁獲量は、54 トンで前年 (31 トン) を上回ったが、平年 (226 トン) を大きく下回った。魚体測定結果から、ゴマサバの 2 歳魚、3 歳魚以上が主に漁獲されたと判断された。

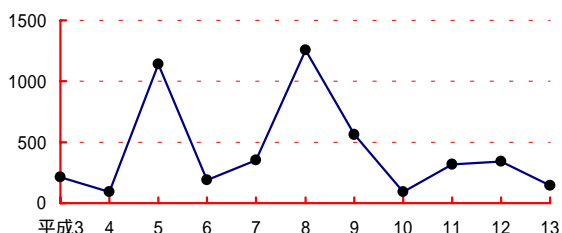


図 サバ類漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名: 大型定置網)

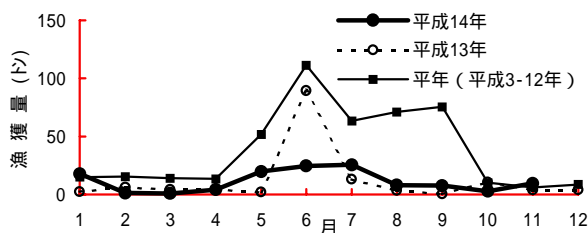


図 サバ類月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名: 大型定置網)

3) 釣: 立縄・多鈎釣等 (清水・加領郷・室戸・甲浦漁協)

4 漁協の合計漁獲量は、582 トンで前年 (773 トン) 平年 (671 トン) を下回った。魚体測定結果から、ゴマサバの 3 歳以上が主体であったと判断された。

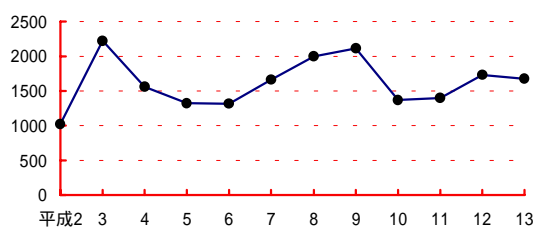


図 サバ類漁獲量の推移 (清水・加領郷・室戸・甲浦: 立縄等釣り)

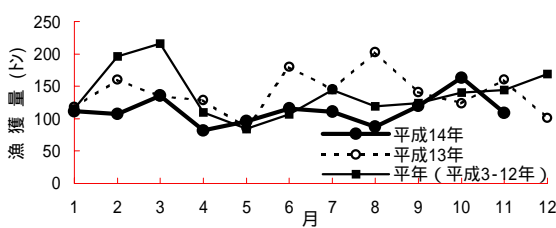


図 サバ類月別漁獲量の推移 (清水・加領郷・室戸・甲浦: 立縄等釣り)

2. 周辺各県の経過

1) 宮崎県

期間中のまき網の漁獲量は、126 トンで前年比 25.5%、平年比 3.7% と大きく下回った。

2) 愛媛県

北部海域ではマサバ、中部・南部海域ではゴマサバが漁獲された。期間中の漁獲量は、北部海域で 47 トン、中部海域で 33 トン、南部海域で 1656 トンであった。

マサバの漁獲量は、前年比 68%、平年比 0.4% の低水準であった。ゴマサバの漁獲量は、前年比 90%、平年比 5% と近年では低水準であった。

3) 和歌山県

紀伊水道外域における 2 そうまき網では、8 ~ 9 月にマサバ主体に漁獲がまとまったが、10 月以降はゴマサバに替わり、全体としては前年並みの低水準となった。

【予測（平成 15 年 1～6 月）】

1．来遊量

ゴマサバは、豊後水道東部海域（宿毛湾周辺海域）では前年を下回り、紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）では前年並みの低水準の見込み。

マサバは、豊後・紀伊両水道域共に引き続き低水準となる見込み。

2．説明

1)ゴマサバ

ゴマサバは、黒潮域を中心に分布しており、伊豆諸島周辺海域以西では、サバ類の中でも漁獲割合が高く、近年では、マサバが主な漁獲対象であった紀伊水道外域でもゴマサバの割合が高くなっている。高知県海域では、平成 2 年以降、ゴマサバがほとんどを占めている。

太平洋側のゴマサバ資源は、近年では平成 11 年級群が多く、次いで平成 12 年級群が多いものと推定されており、高知県海域でも魚体測定結果などから判断して、これらの年級群を主体に漁獲している。これらの年級群は、平成 15 年も引き続き漁獲されるであろうが、他県海域ではほとんど来遊していないこと、また、高齢魚群であることから、来遊量は多くないと考えられる。

また、平成 13 年級群については、これまで漁獲状況が低水準で推移してきたことから、今後も来遊は期待できないものと考えられる。

平成 14 年級群については、他海域の漁獲状況から判断して平成 13 年級群の来遊水準を上回るとは考えにくい。

2)マサバ

紀伊水道外域（和歌山県海域）のまき網によるマサバの漁獲は、平成 14 年 8～9 月にまとってみられたが、10 月にゴマサバに替わり、11 月から再びマサバ 2 歳魚主体となったが、来遊量はほぼ前年並みの低水準で推移した。

また、伊豆諸島周辺海域より西部では、近年、サバ類に占めるマサバの割合は紀伊水道外域（和歌山県海域）を除き低く、漁場形成があっても不安定であることから、紀伊水道外域（和歌山県海域）を除き来遊量は少ないと考えられる。

マアジ

【漁況の経過（平成 14 年 7～11 月）】

1．高知県

1)中型まき網（宿毛湾）

漁獲量は 612 トンと前年（377 トン）を上回ったが、平年（756 トン）を下回った。

大きさ別に見ると、150g 以上の「アジ」が約 85 トンで、前年（41 トン）を上回ったが、平年（254 トン）を下回った。150g 未満の「ゼンゴ」は 527 トンと、前年（337 トン）を上回り、平年並み（502 トン）となり、これは体長組成から、0 歳魚主体に 1 歳魚が混じっていたと判断された。

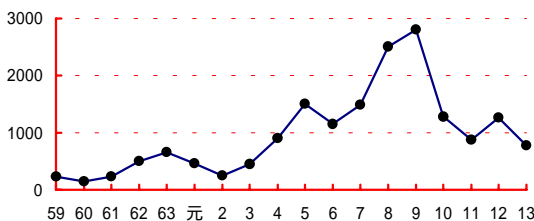


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

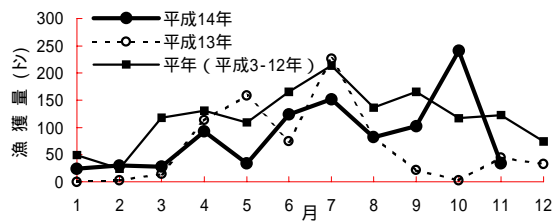


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

2)定置網（窪津・加領郷・椎名漁協）

3 漁協の合計漁獲量は 190 トンで、前年（96 トン）、平年（133 トン）を上回り、体長組成から、0 歳魚主体であったと判断された。

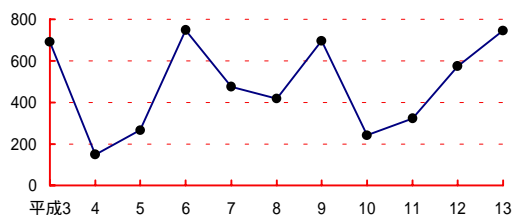


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

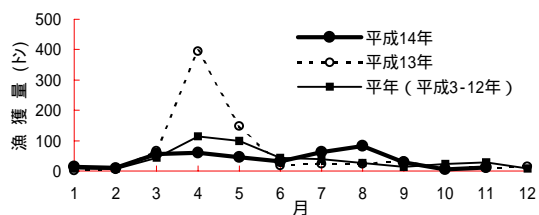


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2. 周辺各県の経過

1) 宮崎県

期間中のまき網の漁獲量は、1977 トンで前年比 48.8%、平年比 60.5%となった。

2) 愛媛県

期間中の漁獲量は、北部海域が 54 トン、中部海域が 635 トン、南部海域が 989 トンと中部から南部海域主体に漁場が形成されていた。全体では、前年比 103%、平年比 89%となった。

3) 和歌山県

紀伊水道外域における 2 そうまき網による漁獲量は、不漁であった前年を上回ったが、平年を下回る低水準であった。

【予測（平成 15 年 1～6 月）】

1. 来遊量

豊後水道東部海域（宿毛湾周辺海域）への 1 歳魚の来遊量は、前年並みから前年を上回る見込み。紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）では、1、2 歳魚とも前年を下回り、全体として前年を下回る見込み。

2. 説明

漁獲量は太平洋南区では平成 5 年以降増大し、太平洋系群全体としては平成 8 年をピークに平成 9 年から 3 年連続して減少傾向にあったが、平成 11 年を谷として平成 12 年、平成 13 年と連続して増加に転じた。

資源量も良好な加入に支えられて平成 2 年から高水準で推移してきたが、平成 9 年以降、0 歳魚の加入の減少とともに 3 年連続して減少した。

平成 13 年は良好な加入により、資源は高水準に転じたが、平成 14 年の加入水準は平成 13 年と比べて低いと推察されている。

豊後水道東部海域（宿毛湾周辺海域）では、例年、上半期は 1 歳魚（前年生まれ群）が漁獲の主体となるが、その漁況は前年下半期の 0 歳魚時点での来遊量に左右されるものと考えられる。平成 14 年下半期の 0 歳魚の来遊量は、漁獲状況から宿毛湾では前年を上回ったが、周辺海域では前年並みであったものと考えられる。

紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）では、例年、1 歳魚以上を漁獲主体としているが、平成 13 年級群、平成 14 年級群の漁況が低調に推移したことから、平成 15 年上半期の 1 歳魚以上の来遊量は、前年を上回らないものと考えられる。

なお、両海域ともに予測期間の後半には平成 15 年級群が漁獲され始めるが、その来遊量については、現時点では予測できない。

マイワシ

【漁況の経過（平成 14 年 7～11 月）】

1. 高知県

1) 中型まき網（宿毛湾）

中型まき網の漁獲はみられず、前年（225 トン）、平年（208 トン）を大きく下回った。

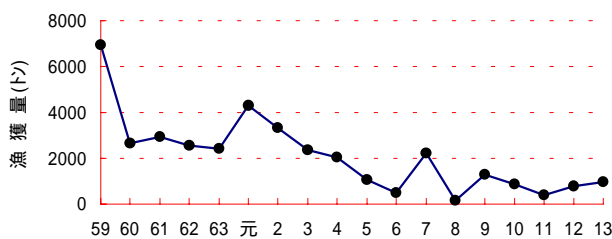


図 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

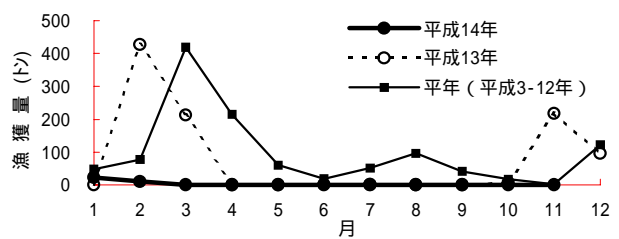


図 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

2)定置網(窪津・加領郷・椎名漁協)

3漁協の合計漁獲量は5トンと前年(31トン)、平年(72トン)を大きく下回った。

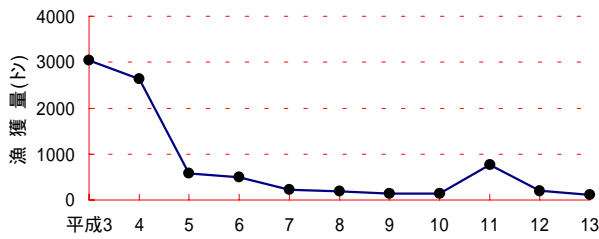


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

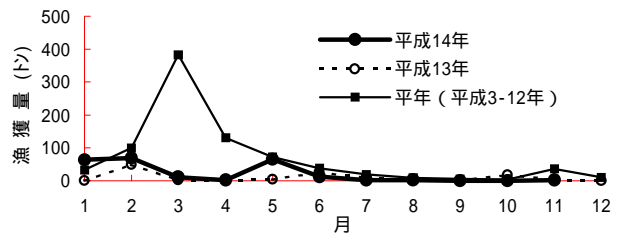


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

2. 周辺各県の経過

1)宮崎県

期間中のまき網漁業では、8月に0.6トンが漁獲されたのみである。

2)愛媛県

期間中の漁獲量は、南部海域において0.09トンのみであった。

3)和歌山県

期間中に1そうまき網の漁獲量は、前年比27.5%、平年比14.9%と大きく下回った。棒受網による漁獲も低調であった。

【予測(平成15年1~6月)】

1. 来遊量

高知県海域全般に低調であった前年並みか前年を下回る見込み。

2. 説明

マイワシ太平洋系群の年初の資源量は平成7年から平成12年までは50万トン前後で低水準ながら比較的安定していたが、平成13年から再び減少傾向が顕著となった。最近までの水揚げ量と魚体組成から、平成13年の資源量は25万トンと推定された。

マイワシは、平成14年8~9月の紀伊水道外域(徳島県海域)と10~11月の熊野灘でややまとまって漁獲されたほかはほとんど来遊していない。さらに、平成14年冬春季のマイワシシラス漁も低調に推移したことから、平成14年の資源量はさらに減少した可能性が高く、平成15年も低調に推移するものと判断される。

カタクチイワシ

【漁況の経過(平成14年7~11月)】

1. 高知県

1)中型まき網(宿毛湾)

中型まき網の漁獲量は、7月の57トンのみで前年並み(66トン)となったが、平年(284トン)を大きく下回った。

銘柄別では、幼魚「ドロ」は19トンと前年(59トン)、平年(66トン)を下回ったのに対し、未成魚・成魚の銘柄「タレ」は39トンと前年(8トン)を上回ったが、平年(218トン)を大きく下回った。

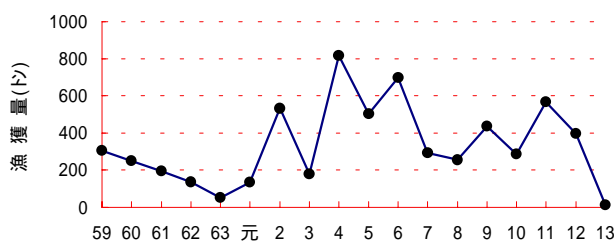


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

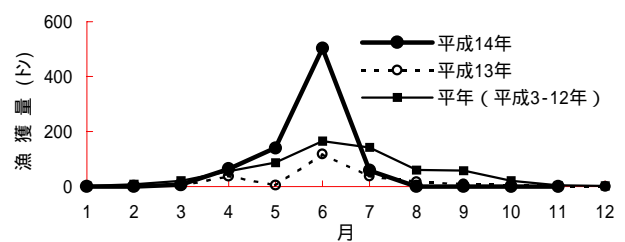
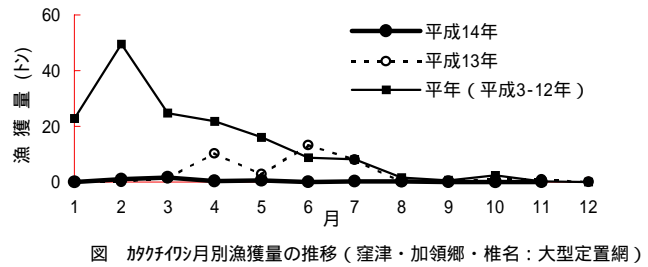
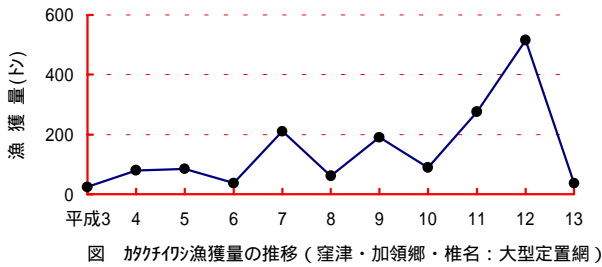


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

2) 定置網（窪津・加領郷・椎名漁協）

3 漁協の合計漁獲量は、0.3 トンで前年（10 トン）、平年（13 トン）を大きく下回った。9 月以降の水揚げはなかった。



2. 周辺各県の経過

1) 宮崎県

期間中のまき網の漁獲量は 1596 トンで、前年比 80.6%、平年比 53.7% となった。

2) 愛媛県

期間中の漁獲量は、中部および南部海域で 121 トンで、前年比 9%、平年比 5% と低水準であった。

3) 和歌山県

シラス以外の未成魚、成魚はほとんど漁獲対象にしていない。

【予測（平成 15 年 1～6 月）】

1. 来遊量

豊後水道東部海域（宿毛湾周辺海域）では前年並みで少なく、土佐湾および紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）では前年を下回る見込み。

2. 説明

卵数法によるカタクチワシ太平洋系群の資源量推定値は平成 9 年から平成 13 年までは 70 万～200 万トン、コホート解析による試算でも 70 万～130 万トンで推移し、水準は過去 20 年では高位、5 年間では横ばい傾向にある。

一方、本県および周辺各県の平成 14 年下半期の漁況をみると、豊後水道および紀伊水道外域では低水準が続き、本県の中型まき網（宿毛湾）および定置網（窪津・加領郷・椎名漁協）では 9 月以降は水揚げが見られていない。

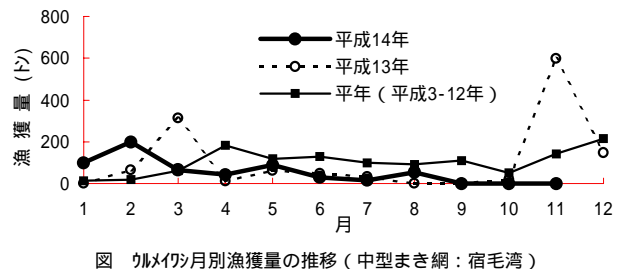
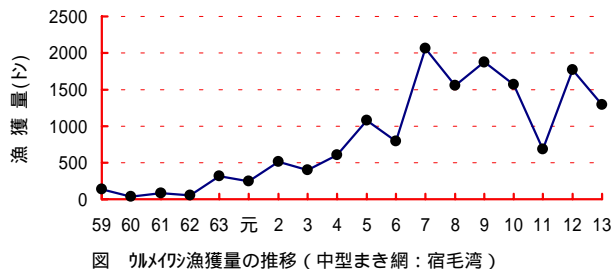
ウルメイワシ

【漁況の経過（平成 14 年 7～11 月）】

1. 高知県

1) 中型まき網（宿毛湾）

中型まき網の漁獲量は、72 トンで前年（648 トン）、平年（495 トン）を大きく下回った。



2) 定置網（窪津・加領郷・椎名漁協）

3 漁協の合計漁獲量は、35 トンで前年（72 トン）、平年（89 トン）を下回った。

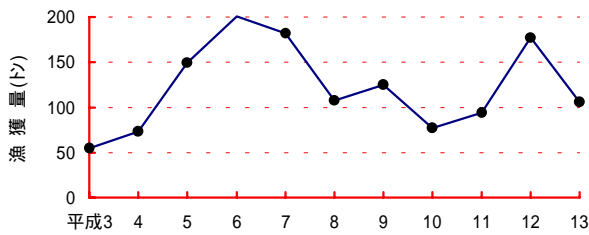


図 ムメイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

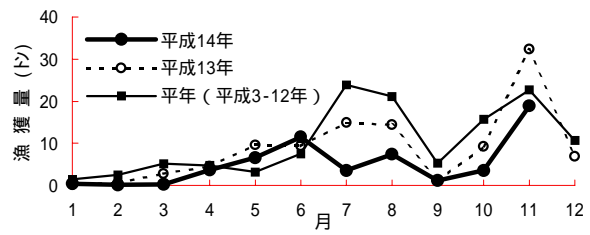


図 ムメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

3) 多鉤釣漁（宇佐漁協：土佐湾中央部）

漁獲量は、23 トンで前年（1 トン）を上回ったが、平年（29 トン）を下回った。

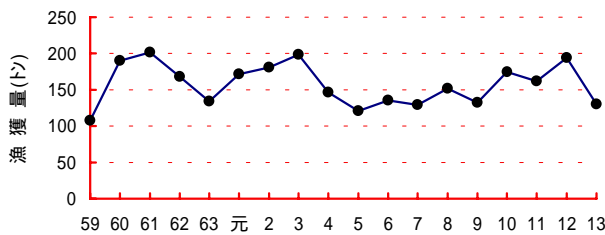


図 ムメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鉤釣）

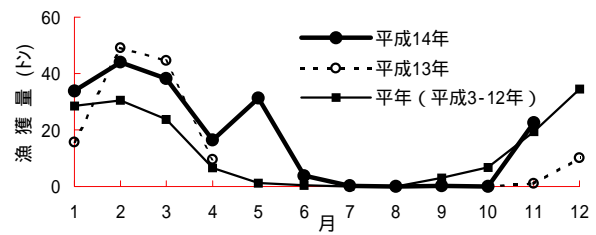


図 ムメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鉤釣）

2. 周辺各県の経過

1) 宮崎県

期間中のまき網による漁獲量は、3013 トンで前年・平年並みとなった。

2) 愛媛県

期間中の漁獲量は、中部および南部海域で 362 トンで、前年比 40%、平年比 84%となった。

3) 和歌山県

期間中の 1 そうまき網による漁獲量は、前年比 47.9%、平年比 31.9%と大きく下回った。

【予測（平成 15 年 1～6 月）】

1. 来遊量

豊後水道東部海域（宿毛湾周辺海域）では前年を下回る見込み。土佐湾では前年、平年を下回る見込み。紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）では前年並みか前年を下回る見込み。

2. 説明

豊後水道東部海域（宿毛湾周辺海域）では平成 14 年級群の豊度が近年では低く、土佐湾から紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）では黒潮の接岸のために平成 14 年後半の来遊が低調で、親魚が少なかった。

ただし、平成 15 年 3～4 月後半に土佐湾沖から紀伊水道外域西部海域（芸東周辺海域）で黒潮が離岸して、来遊条件が好転する可能性がある。

シラス

【漁況の経過（平成14年7～11月）】

1. 高知県

機船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・大方町田野浦支所の7漁協合計）による漁獲量は、258トンで平年（163トン）の1.6倍となり、不漁であった前年（8トン）を大きく上回った。漁獲量は期間中増加する傾向にあった。

漁獲されたシラスの種組成をみると、11月まではカタクチイワシシラスを主体に推移したが、それ以降はウルメイワシシラスが混じり始め、マイワシシラスもわずかながら見られ始めた。

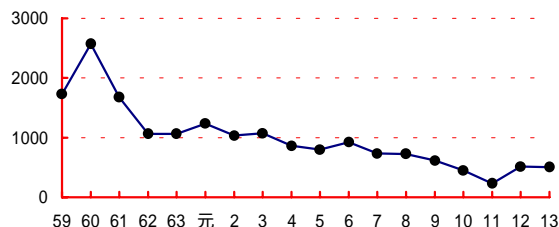


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

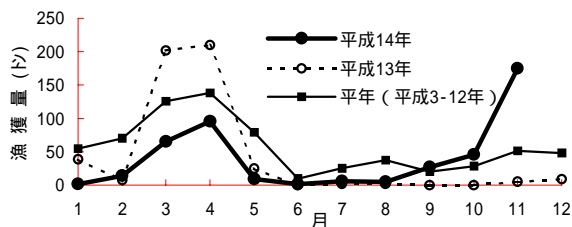


図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

2. 周辺各県の経過

1) 宮崎県

期間中の漁獲量は、727トンで前年比65.8%、平年比40.6%と下回った。

2) 和歌山県

8月下旬からの秋シラス漁が記録的な好漁となり、パッチ網による箕島町漁協における水揚げは、9月に201.2トンと平年の26倍となった。

【予測（平成15年1～6月）】

シラスの予報は、イワシ類産卵調査結果等を基に、今年3月にファックスや電子メールを用いた会議で検討後に発表します。